

奇習 鬼追い



正月7日の夜、深川の熊野神社領域で県指定無形民俗文化財の「奇習鬼追い」が行われました。鬼追いは、仏に罪を懺悔し、国家安泰や五穀成就を祈る仏教行事です。深川の鬼は、「招福除災の鬼」とされています。男鬼、女鬼、子鬼の3匹が境内の鬼堂から飛び出し、熊野神社領域を所狭しと暴れまわります。鬼が暴れるほどその年は、五穀豊穡になると言われ、鬼が無数に身にまといつている御幣を取り、鬼の持つ鬼の手で叩かれた人は今年1年を健康に過ごせると言われており、これが奇習といわれる由来にもなっています。

近年は、テレビで特集が組まれるなど、各方面から大きな注目を浴びています。

当日は、観光特産開発センターによる観光ツアーも実施され、多くのお客さんで境内や参道が埋め尽くされました。

ひよつとこ踊り、「鬼神太鼓」の奉納演奏が行われた後、午後8時から鬼追いがスタート。半鐘や空砲が激しく鳴り響く中、3匹の鬼は熊野神社領域を縦横無尽に暴れまわりました。鬼が



御幣を求めて鬼に群がる観客

姿を現すと、歓声と共に御幣を求めて多くの人が果敢に鬼に群がり、鬼の手で叩き拒まれながらも御幣をちぎりつつしていました。

毎年参加している末吉高校2年生の3人組は、「今年は頭とお尻を叩かれました。痛かったけど、その分だけ良い年になると思います」と元氣いっぱい笑顔で話していました。



御幣を手に笑顔を見せる高校生3人組